

平成19年12月28日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

第1回教育文化部会・第1回環境清流部会（合同部会）議事録

11月29日（木）美しい多摩川フォーラムの第1回教育文化部会と環境清流部会の合同部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

次回の教育文化部会及び環境清流部会では、今回の議論を踏まえ、具体的なアイデアやデータを持ち寄り、20年度の事業計画案の検討を行うこととなっており、平成20年2月に開催を予定しています。（日程が決まり次第ご連絡致します）

【開催日時】 平成19年11月29日（木）14時～16時

【開催場所】 羽村市生涯学習センター ゆとろぎ 2F・講座室1

【出席状況】 会員15名、一般参加者14名 合計29名

合同部会の概要

1. 下重・教育文化部会長からご挨拶と「多摩川の森・自然教室」に関するご報告がありました。
2. 事務局から経過報告がありました。
3. 当フォーラムの小倉顧問より「多摩川一斉水質調査」の際に使用する機材やパックテストについてのご説明がありました。
4. 協議内容
 - (1) 教育文化部会・環境清流部会に期待することについて
 - (2) 美しい多摩川100年プラン&20年度事業計画に対するヒアリング（資料7）
 - (3) 美しい多摩川100年プランに関するワークショップの立ち上げについて
 - (4) その他

1. 部会長挨拶

（下重部会長）教育文化部会の部会長を務めている下重です。皆さんそれぞれお仕事をもちながら、大変お忙しい中、当部会にいらして頂いて本当に嬉しく思います。それぞれ NPO 活動や地域活動、ボランティア活動をされている方ばかりだと思いますが、

それにも関わらず、美しい多摩川フォーラムの地域経済活性化、教育文化、環境清流の3つのコンセプトのもと、この多摩川流域を何とか活性化させようという想いで皆さんがお集まりになったと思っています。お忙しい中をボランティアとしてお集まり頂けたことを事務局にしっかり認識してもらい、事務的なことはなるべく皆さんに負担をかけないよう、事務局にしっかり支えて頂きたいと思っています。このように、当部会では、多摩川流域への貢献を第一に考え、力を合わせてより良い多摩川流域を次世代に継承していきたいと思います。幸い教育文化部会と環境清流部会が、幼児のための環境教育ということで取り組んでいる「多摩川の森の環境教育」プロジェクトは、順調に進んでおります。夏休みの3日間研修を2回終了致しまして、現在は保育園の中で、子供たちと一緒に「多摩川の森の自然教室」をボランティアの応援を頂きながら実施しているところです。この日本はどうなっているのかと思うようなニュースが毎日流れていますが、自分たちの地域は自分たちでつくるという生きがいをもって取り組んで行きたいと思えます。特に、次世代の教育は大事ですから、子供たちと一緒に自然の中に入って、生きとし生けるものは皆人間の仲間であることを学びながら、次世代の子供たちと一緒に地域づくりの一步を踏み出したいと思えます。ただ、これは私たちだけで出来るものではありません。地域の多くの皆さんの協力を得ながら、1年限りの事業ではなく、継続して実施することにより効果が出るように、今後とも是非よろしくお願い致します。

2. 経過報告・資料説明（宮坂事務局長）

フォーラム設立総会の開催状況について（資料1）

フォーラム設立総会後の臨時運営委員会について（資料2）

フォーラム設立以降の活動状況について（資料3、資料4）

フォーラムの会員状況について（資料5）

第1回運営委員会（平成19年度事業計画の追加・変更等）について（資料6）

- ・ 多摩川夢の桜街道プラン（事務局）
- ・ 多摩川一斉水質調査プラン
（小倉・東京農工大学名誉教授、佐山・みずとみどり研究会事務局）
- ・ 多摩川流域の「水辺の楽校」等の一斉連携活動プラン
（竹本・狛江水辺の楽校副代表）

美しい多摩川フォーラムの当面の計画（平成19年～20年度）（資料7）

美しい多摩川フォーラムのホームページのトップ画面（資料8）

（下重部会長）事務局から東京都の生涯学習関係の刊行物が配布されていると思えますが、そこに環境清流部会と教育文化部会が合同で実施しております、「美しい多摩川フォーラムによる多摩川の森・自然体験教室の取り組み」が、取り上げられております。

こういう分野にも、美しい多摩川フォーラムの取り組みが取り上げられたことを大変嬉しく思います。事務局長をはじめ事務局の皆さんの熱心な取り組みによって、このような事業ができたということを本当に素晴らしいと思います。本日は、様々な分野でご活躍されている皆さんから、色々な意見をお聞きしたいと思います。

3. 多摩川一斉水質調査について（小倉顧問）

（小倉顧問）小倉です。よろしくお願いします。「多摩川一斉水質調査プラン」で実施する水質調査の手法は、2004年から実施している「身近な水環境の全国一斉調査」と同様の方法で行うつもりです。これは簡単なキットをお配りして、気温と水温とCODを測定し、その結果を事務局に報告して頂き、水質マップを作成するというものです。19年度は全国の水質マップ、関東地方の水質マップなどをまとめております。多摩川流域でも水質マップを作りたいというのが、私どものかねてからの願いだったのですが、今回、美しい多摩川フォーラムの方で実施するということなので、19年度はそれの元となる多摩川流域の水質のベースマップを作成する計画です。このベースマップを作っ、て、多摩川流域の気温、水温、水質マップを作れば、水環境がどのようになっているのかが分かり、それを学校の教材としても使えるし、水環境への関心が高まる材料になると考えております。20年度は全国一斉調査の中で、特に多摩川の水質調査には、なるべく多くのフォーラムの会員に参加して頂いて、それを多摩川独自の結果として、水質マップとしてまとめていきたいと考えております。

水質調査の実施日につきましては、来年の6月8日(日)午前中を予定しております。全国一斉水質調査では、来年の6月に向けて募集を始めております。今後の情報につきましては、美しい多摩川フォーラムのホームページなどでお知らせ致します。地域の市町村で実際に水質調査を行って、多摩川全般として分かりやすいマップにまとめて、人々の理解と関心を高め、水環境の保全に繋がることを期待しております。初めての方も多いと思いますので、来年度になりましたら、青梅信金あたりで事前説明会を開催したいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

（宮坂事務局長）事務局から補足させていただきますと、小倉先生は全国の6,500カ所の地点で水質調査をご指導されている方で、多摩川をライフワークにされていると伺っております。私どもとしては本当に心強く、有り難く思っています。水質と言えば、夏の台風と大雨で多摩川の河川は相当白濁化しております。通例ですと1ヶ月もすれば濁りは収まるのですが、今回は現在もお白濁化が続いており、専門家によりますと、来年の春まで収まらないのではないかとのご見解もありました。ちなみに、鳩ノ巣渓谷では、この季節は川が真っ青で透明感があり、紅葉の観光にはぴったりの風情なのですが、ただ今、回覧している写真（11月9日現在）のように、依然として白濁化が収まっていない状況です。

(下重部会長)この問題は次世代にわたる問題です。私たちの体を巡り巡って流れている血液の60～70%が水分です。いずれ私たちの体に入ってくるんだ、だから川をきれいにしなきゃいけないということで、多くの皆さんのご協力を頂きたいと思います。次は、「水辺の楽校」の連携プロジェクトの説明に入りたいと思います。

(井上運営委員)子供たちが川で遊び、学べる場を作ろうということで、国に協力をお願いし、周辺工事をして頂いたり、子供に貸すライフジャケットなどを用意してもらっています。これが水辺の楽校制度で、多摩川では、源流の小菅から川崎まで15ヵ所あります。

(宮坂事務局)事務局から補足させていただきますと、水質調査でも言えるのですが、水辺の楽校は、多摩川の中・下流域で活動が活発で、上流域ではちょっと手薄でしたので、当フォーラムの設立を契機と致しまして、上・中・下流域で一斉に連携してはどうかと考えました。ちなみに、水質調査は地球温暖化の問題にも光を当てていこうと考えております。また、次代を担う子供たちのことを考えると、多摩川は、川の持つ意味合いや自然循環を学ぶ場所として相応しいので、上・中・下流域が連携することにより、多摩川から全国に情報を発信していきたいと考えております。お子さんにもフォーラムに積極的に参加して頂いて、水辺の楽校を中心に連携し、教育ネットワークを築いていきたいと考えております。さらに、そこで学んだことを発表する場として、来年の12月頃に、「多摩川・子供シンポジウム」を開催することが出来ればと思っています。やや大袈裟な言い方をすると、「多摩川教育河川ネットワークプラン」として考えており、多摩川を教育の場として利活用していきたいと考えております。本日は出席されていませんが、「水辺の楽校」でリーダーシップを発揮されている竹本運営委員を中心に、その辺りの考え方をおまとめ頂きたいと考えております。

(下重部会長)有り難うございました。ここにお集まりの方々には川辺で遊んだ経験のお有りの方と思いますが、今の子供は川辺で遊んだ経験がないんですね。私は地方の「水辺の楽校」でお手伝いをしたことがあります。考えてみると、大人たちが子供の遊び場を奪っているし、川は危ないから入ってはいけないとよく言いますが、そのようにしたのは私たち大人なんですよ。子供のことを「ガキ」っていいいますが、水の中で元気いっぱい遊ぶような「水ガキ」を作りたいというのが「水辺の楽校」の趣旨だと思います。

4. 協議内容

(1) 教育文化部会・環境清流部会に期待することなど(会員の意見・要望等)

- ・ 多摩川の白濁化の原因は森林問題ではないだろうか。
- ・ 水環境の保全について考えていきたい。

- ・ 水量の安定供給について考えていきたい。
- ・ 水源地が駄目なら先は見えないと思っている。
- ・ 水源の安定供給について、上流に水が集まらないのは人的問題もあるだろうが、水量の問題なのではないだろうか。
- ・ 食品の微生物の力を借りて食物連鎖でヘドロをなくしたい。
- ・ 多摩川でバーベキューをする人は、ごみを持ち帰ってほしい。
- ・ こうした情報が言い放しにならないよう、事務局がホームページに取り上げて情報発信してほしい。
- ・ 多摩川に遊びに来た人のマナーが悪いので困る。ごみ拾いの目の前で、子供会などの子供連れの親がごみを捨てていく。注意しても反省がない。
- ・ 鹿と猪の食害がひどい。
- ・ 空を見てほしい。川崎の空と笠取山の空の違いを知ってほしい。そして子供に教育していきたい。
- ・ 多摩川を通じて、子供を自然に近づけるのが大切だと思う。
- ・ 多摩川は水温が低くて泳げないので、泳げるようにしたい。
- ・ 水に親しんでもらう環境を作りたい。
- ・ 勉強しながら部会に参加したい。
- ・ 多摩川沿いに遊歩道をつくりたい。
- ・ 水辺の活動の手伝いをしていきたい。
- ・ 水質も PR して同世代の多くの人と活動していきたい。
- ・ 水質のレベルについて、どのレベルを目標としているのか。飲める水？泳げる水？魚が息できる水？泳いでいてうっかり飲んでも大丈夫な水程度？かどうか等、水質についてアプローチしていくことが大事だと思う。
- ・ 環境を守るためには自然を使う必要がある。自然を使うためにはそれなりの環境が必要だと思う。「持ちつ持たれつ」の関係を大切にしたい。
- ・ 美しい多摩川フォーラムのパワーをもらいにきた。
- ・ CSR の意識が高まれば、日本は良くなると思う。
- ・ 多摩川については、水に関するだけでなく、文化の切り口になれば良いと思う。
- ・ 美術や音楽の面で協力したいと考えている。
- ・ 多摩川の水辺のコンサートがしたい。音楽プロジェクトとして「青梅プロムナードコンサート」というイベントを年 2 回、4 月と 9 月に実施している。
- ・ 子供と多摩川の距離間が大切だと思う。
- ・ 我々が年老いても多摩川が盛り上がっていてほしい。
- ・ 泳げるような多摩川になってほしい。
- ・ 町に多摩川の緑を残したい。

- ・ 羽村の多摩川べりに水族館をつくりたい。
- ・ 水族館も流域全体で役割を考えられるといいと思う。
- ・ 多摩川の上流、中流、下流では意識の温度差があると思う。特に青梅市は環境が良いため、川に対する環境意識が薄いと思う。
- ・ 水がきれいになれば、同じ川沿いに桜が植わっていたとしても、人の集まりが違おうと思う。水がきれいであることが大切。
- ・ きれいな環境を更にきれいにし、市民が共有し、地球を活性化していきたい。
- ・ 御岳神社の宿坊の雑排水が山を汚しているため、そちらも視野に入れてほしい。

(2) 美しい多摩川100年プラン&20年度事業計画を策定する上でのヒアリング (資料7)

開催場所を広げ、いろいろな市で部会を開催してほしい。移動部会を立ち上げてはどうか。上流、下流の人は遠いので大変なのでは？

検討させてほしい。会員がこの近辺に多いので、今回はここで開催している。環境の保全・整備というテーマについて、森林の保全も入っているのか？

森林の保全も入っている。

川が汚れる理由には、山林に対して間伐など適切な処置を怠ってきたため、大雨が降ると、山が保水せず、山の石灰分を含む濁った水が川に流れ出すことも考えられる。一人一人が出来ることを、山の整備でも川の整備でも実行していくことが大切だと思う。

多摩川のためにも、山を上手く管理した方がいいが、美しい多摩川フォーラムと東京都水道局との関係は？

奥多摩の水源林は東京都水道局の管轄なので、水道局にも声をかけている。新しい組織が立ち上がる時は、その効果が見えないので、いきなりの参加は難しいとのことだった。

下流では実は水源林など眼中にない。下流には99%近く、奥多摩の川の水は流れていない。上流の川の水は羽村で取水され、皆の家庭と皆の体を通り、下水処理場を通った水から中・下流が出来ているので、源流のきれいな水だけを見て満足してはならないと子供に教えている。むしろ、人間のつくった水だから汚してもいい、みたいな意識が下流域にはある。このように「下流は污水处理場からの水で出来ている」、「上流の水は下流に流れていない」等、ショッキングな事実を皆さんは知っているのだろうか？羽村の堰の取水率を60%位にするだけで、上流の水が下流に流れる割合が格段に上がると思う。

上流にいる人に上流の水は下流には流れていないことを知ってもらいたい。下流では、子供に「どうすれば多摩川がきれいになるの？」と聞かれたら、「多摩川を

きれいにするには蛇口を必要以上に開けるな」、「上流の水を節約すれば、その水は川に流れてくるようになる」と教えている。

下流では「下流のアユは食べられるの?」という程度の認識だったので、多摩川のアユを皆に食べてもらい、資源として活用していきたい。

下流でも緑を残す運動をしたい。

「青梅・多摩川水辺のフォーラム」と「美しい多摩川フォーラム」の基本的なコンセプトを明確にしておきたい。「青梅・多摩川水辺のフォーラム」は水質調査など実働部隊と認識している。

大腸菌の問題があるが、子供は気にせずに泳いでいる。

飲める水を目標に水質を良くしていきたい。

(3) 「美しい多摩川100年プラン」に関する官民によるワークショップの立ち上げについて (全員賛成)

(4) その他

源流、上流、中流、下流、エリアごとに抱えている問題が違うと思う。

上流では水量が減っていることが問題になっている。

山が荒廃し、保水が出来なくなっている。

源流、上流、中流、下流の攻め方を、ワークショップで区分するなどして、変えてみたらどうか。上・中・下流域とも同じやり方では無理がある。区分して対策リストを作成してはどうか。

自分たちが汚した川を、次世代のためにきれいに残していきたい。

「水辺の楽校」との連携は?

教育文化部会としては、「水辺の楽校」等のネットワークを立ち上げたい。部分的に立ち上がっているところもあれば、まだ立ち上がってないところもあるので、全域でネットワーク化し、意見交換や交流していくことが大事である。子供にも問題意識を持たせることも必要である。是非、連携活動を行いたい。

「水辺の楽校」以外にも NPO 的な形でどこが入るのか?

適当なグループがあれば、是非、事務局にメールやペーパー等で連絡してほしい。次回の部会につなげていきたい。

幾つかの流域ネットワークがあるが、そうしたグループとどうやって連携をしているのか。

「自分たちが一番多くの NPO を集めているから偉いんだ」とやっていくと、最後に必ずケンカになると思う。どこが一番予算を取ったんだ!? というふう

に予算の獲得合戦になると、それを消化するだけのイベントが乱立してしまう。大人の自己満足だけで終わり、子供たちが主役にならないので、注意が必要である。

ホームページでリンク集を作成し、お互いの活動などをチェックし合ったらどうか。「美しい多摩川100年プラン」の地域振興の中で地元学というのが大切とされている。「美しい多摩川」を形にする、例えば、「地元を知ろう」白書みたいなものを作成してはどうか。多摩川の周辺を知る、魚や山などが分かる百科事典を作れば、問題意識も変わるのではないか。

多摩川学は、多摩川の運動を続けていく中で、経験や知識、データを蓄積していき、体系化された時に、何らかの形にまとまっていると良いなという期待を込めたものです。また、それを意識していこうということです。

教育について、地元学校の金融経済教育と郷土教育をどのように考えているのか？

金融がむずかしくなっているので、金融経済教育、セミナーを考えている。ニーズ次第である。一方、地域の人々の多摩という郷土に対する思いが薄いので、郷土愛や歴史を深める勉強をすることにより、地域への関心が高まると考えている。フォーラムは多摩川を軸にしているのに、パンフレットをみると、教育文化のところ

で、具体的には、「地元学校への教育」となっているが、どうしてここだけ地元と表現しているのか？大学との連携は？

多摩圏民として据えており、必ずしも多摩川流域の人だけのための金融経済教育や郷土教育ではない。多摩の各地域を地元と表現している。

大学との連携については、ニーズ次第で検討する。

多摩川圏という形で囲うと行動が取りにくくなるのではないか。来る者は拒まずでやっていくのはどうか。

多摩川や多摩を愛する人は拒まずということで運営している。

お茶のペットボトルは不要である。必要な人は水筒を持参してほしい。こうした点を事務局から発信してほしい。

以 上